

平成26年度

公立大学法人公立ほこだて未来大学年度計画

公立大学法人公立ほこだて未来大学

平成26年度 公立大学法人公立はこだて未来大学年度計画

第1 年度計画の期間等

1 年度計画の期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日までの1年間とする。

2 年度計画の意義

この計画は、第2期中期計画に基づき、事業年度の基本的な業務運営に関し定めるものであり、年度計画に定めのない事項であっても、第2期中期目標および第2期中期計画を達成するため、適宜、適切に取り扱うものとする。

第2 第2期中期目標を達成するためにとるべき措置

1 大学全体としての理念・目標に関する措置

- ・中期計画に基づき、各学科，研究科，附属機関の年度計画を策定し，ホームページで公開する。
- ・年度計画について，教授会・各コース会議等を通じて周知を図り，教職員による理解の共有の徹底を図る。

2 教育に関する措置

(1) 学部教育の設計・開発に関する措置

- ・大学の理念および目標に基づいた教育課程の編成方針と，卒業認定・学位授与に関する方針について検討する。
- ・21世紀型スキルへの対応という観点から，教育手法・内容の拡充と改善について検討する。
- ・メタ学習を基礎とした専門教育の手法の研究を継続する。
- ・カリキュラム実施状況の評価とりまとめ，問題点の抽出を行い，コース内で連携を取りながら改善を図る。
- ・年度当初に，コース会議でコース別の育成目標等の確認を行い，年度末に達成度の評価を実施し，達成状況に応じて，必要な改善を図る。
- ・教養基礎科目群，共通専門科目群からなる体系的なカリキュラムに則り，科目担当者の連携を深め，講義，演習の効果的な実施手法を引き続き研究する。

- ・コース会議等において、個々の教員の担当科目の実施方法を教員相互で確認するとともに、科目間の情報交換を図る。
- ・プロジェクト学習の現状を分析し、高度ICTコースとの連携に向けてプロジェクト学習の新たな発展形態について検討する。
- ・プロジェクト学習の成果を積極的に学外に発表し、学外者の評価を受ける。
- ・高度ICTコースの教育体制の充実を引き続き進めるとともに、カリキュラムの評価、問題点の抽出を行い、さらなるレベル向上と教育設計の改善を図る。
- ・高度ICTコースの学生に対する面談等を通じて、学生ごとの能力を把握し、目標達成に向けた育成計画を実施する。
- ・学内推薦制度を積極的に啓発し、より多くの学生が大学院進学を目指すように継続的に制度検討を行う。
- ・優秀な学生を確保するため、大学院早期入学(飛び入学)を継続して実施する。
- ・メタ学習センターが中心となり、新入学生のための導入教育、リテラシー教育、教養教育等の実践的カリキュラム開発を行う。
- ・AO入試、推薦入試の合格者に対して実施している「数学」、「英語」の導入教育について、引き続き実施する。
- ・メタ学習センターが中心となり、アクティブ・ラーニング、ハイブリッド・ラーニング、地域連携型教育等の新しい教育方法や学習方法の実践的教育方法を継続的に開発する。
- ・さまざまな分野の教育を目的として導入したe-Learningシステムについて、現行のシステムの維持と評価、さらには改善を継続する。
- ・バーチャルイングリッシュプログラム(VEP)の課題タイプの多様化を進め、フリーの外部デジタル・コンテンツの活用を積極的に進める。
- ・各科目担当教員がシラバスによって達成目標を明示し、定期試験および授業オンラインフィードバック等によって達成度の評価を行う。
また、オンライン授業評価の評価項目の検討など、現行システムの見直しを引き続き行う。
- ・教員・学生間の交流を進め、教育・研究水準の向上に引き続き努める。
- ・教育方法について、教務委員会を中心に具体的な改善手法を継続的に検討する。

- ・教員全員がファカルティ・ディベロップメントへの意識を共有するなかで、授業評価を積極的に活用し、相互評価、研修などを通して教育の質の向上を引き続き図る。
- ・メタ学習センターを中心に、ファカルティ・ディベロップメントの概念をより明確化し、周知活動を含む実行計画を策定、推進する。

(2) 学部教育の質の向上に関する措置

- ・授業の目的や計画に応じて、PBL、地域連携型教育、産学連携によるコーオプ型教育等、様々なアクティブ・ラーニング手法の効果的な導入を図る。
- ・オンデマンド教材やオープンオンラインコース教材(MOOC)等の授業外教育プログラムの提供・活用等について検討し、必要に応じて導入を進める。
- ・デジタルものづくり教育等、創造的思考や実践力を培う先進的な専門教育手法の導入を図る。
- ・アカデミックリテラシーなどの科目を通じて専門英語教育、コミュニケーション教育の充実を図る。
- ・バーチャルイングリッシュプログラム(VEP)の課題タイプの多様化を進め、フリーの外部デジタル・コンテンツの活用を積極的に進める。(再掲)
- ・平成27年度に更新予定の次世代情報通信システムを構築する。
- ・平成27年度に更新予定の次世代の情報通信システムのために、学術情報ネットワークや学術協定大学などとの密接な連携を可能とするシステム構築を検討する。
- ・先端的な教育のための高度情報インフラを継続的に整備し、その効果的な教育活用を図る。

(3) 大学院教育の設計・開発に関する措置

- ・企業等や外部機関との共同研究プロジェクトへの大学院生の積極的参加を奨励し、実問題解決を通じた学際的・総合的な研究開発能力を養う。
- ・学部および大学院の教務委員会が連携し、学部生が履修可能な大学院科目の整理を図る。
- ・高度ICT領域も含めた大学院開講科目について、計画的な評価・見直しを行う。
- ・大学院における基礎教育のあり方について、高度技術者としての能力の獲得に向けた教育体制の維持・改善に努める。
- ・学部教育との連動や柔軟な履修を可能とする教育内容を意識したカリキュラムの改善を検討する。

- ・優れた専門職業人育成という社会の要請に応じて、カリキュラムの見直しを引き続き検討する。
- ・実践的な技術や知識の専門性向上を図るための大学院教育方法を引き続き検討する。

(4) 大学院教育の質の向上に関する措置

- ・研究者として必要とされる読解力，分析力，仮説構築力，計画力，学術活動のための英語力等を向上させるための教育を充実する。
- ・授業の目的や計画に応じて，PBL，地域連携型教育，産学連携によるコーオプ型教育等，様々なアクティブ・ラーニング手法の積極的な導入を図る。
- ・RA（リサーチ・アシスタント）制度を活用し，実際的な研究方法に関する経験を深める機会を提供する。
- ・公的研究資金の公募情報を収集，公開するとともに，獲得のための支援活動を継続する。
- ・知財活動やリサーチ・アドミニストレーター（URA）に関するセミナー等に参加させるなど，自立した研究者としての能力やキャリア設計能力の育成を支援する。
- ・学術交流の連携先を増やすと同時に，すでに連携している大学との交換留学を活性化する。
- ・学生の留学に対する意識の向上を図るとともに，学生への情報提供とニーズ把握を行い，留学支援の体制を整備する。
- ・外部の研究者を招聘した学術セミナー等の開催を通じて，最先端の知識や研究事例に触れる機会を充実させる。

3 学生の受け入れに関する措置

(1) 学部の入試制度に関する措置

- ・入試選抜がアドミッション・ポリシーに沿って実施されているかどうかについて，検証を行う。
- ・推薦入学者の入学後の学業成績・課外活動等を精査し，推薦のありかた（募集定員，指定校枠等）の改善を検討する。
- ・入学試験データおよび入学後の成績を調査し，入試制度の検証を引き続き行う。特に，平成24年度の名古屋会場新設による志願者の動向を引き続き調査する。
- ・国の大学入試制度に関する改定動向を見据え，時代の変化に対応した入試制度のあり方を検討する。

(2) 学部入学者の受け入れに関する措置

- ・オープンキャンパスおよび大学見学者など学内への来学者の増加を図るための方策を検討し、実施する。
- ・高校訪問，出前講義および進学ガイダンスなど学外における学生募集活動について，これまでの結果を踏まえ，より計画的・効果的に実施する。
- ・計画的・効率的な学生募集活動の実施のため，入試データを活用するとともに，学生募集活動データを引き続き整備する。
- ・リニューアルしたウェブサイトやパンフレットを活用し広く効果的に広報活動を実施する。
- ・高専卒業者の転入受け入れについて，引き続き積極的な入試広報を行うとともに，適切な受け入れ体制を維持・整備する。
- ・社会人の入学および転入の受け入れを積極的に進めるとともに，適切な受け入れ体制について検討する。
- ・女子高生の大学進学率増に着目し，女子高校生へ積極的な入試広報を行い，女子学生の比率を適正な水準に高めていくよう努める。
- ・障がい者等の受け入れにできる限り努めるとともに，適切な受け入れ体制を整備する。

(3) 学部入学者に対する入学時の導入支援に関する措置

- ・A O入試，推薦入試の合格者に対して実施している「数学」，「英語」の導入教育について，引き続き実施する。（再掲）
- ・函館圏の高校と連携した高校理数系科目の学び直しのための支援など，必要な措置を継続して行う。

(4) 学部入試および入学者に関するデータの分析と活用に関する措置

- ・推薦入学者の入学後の学業成績・課外活動等を精査し，推薦のありかた（募集定員，指定校枠等）の改善を検討する。（再掲）
- ・入学試験データおよび入学後の成績を調査し，入試制度の検証を引き続き行う。（再掲）

(5) 大学院入学者の受け入れに関する措置

- ・留学生や社会人など広範囲から入学者を受け入れるため，履修制度や教育課程などの体制を整備するとともに，適切な入試制度について継続的に検討し改善を図る。
- ・社会人の受入方法について，遠隔教育の導入可能性も含めて引き続き検討する。
- ・学部教育との連動や柔軟な履修を可能とする教育内容を意識したカリキュラムの改善を検討する。（再掲）

- ・多様な専攻からの入学者に対応するために，大学院の専門教育の基盤となる導入科目の充実を図る。
- ・学内推薦制度を積極的に啓発し，より多くの学生が大学院進学を目指すように継続的に制度検討を行う。（再掲）
- ・優秀な学生を確保するため，大学院早期入学(飛び入学)を継続して実施する。（再掲）

4 学生支援に関する措置

(1) 学習・履修状況，進路設計に関する措置

- ・統一性のある表記に努めるとともに，適宜内容を見直し，明快で一貫性のあるシラバスを作成する。
- ・入学初頭のオリエンテーションや担任面談，毎年度初めの学年別ガイダンスを通じて，講義履修についての必要なアドバイスをを行う。
- ・担任教員，教務委員会，事務局が連携し，学生の履修状況を把握し，問題を抱える学生に対する個別指導を強化する。
- ・授業や研究指導等での教員・学生間のトラブルに即応できるよう，相談方法を学生に周知する。また，トラブルの防止に努める。
- ・専門科目を含むシラバス全体と学生個々の履修状況を携帯端末から確認できる，デジタルカリキュラムマップの試行的運用の結果を踏まえながら，必要な改善を図り，学生が履修状況管理を効率的に行える支援ツールとして活用する。
- ・入学初頭のオリエンテーションや担任面談，毎年度初めの学年別ガイダンスを通じて，講義履修についての必要なアドバイスをを行う。（再掲）
- ・4年次の卒業研究の研究室配属等の進路選択に際して，学生が早期から準備を行えるよう，コース別ガイダンス，研究室のオープンラボなどにより，系統だった情報やコミュニケーション機会を提供する。
- ・ポートフォリオ・システムの着実な浸透を図り，学生各自の能力や適性を判断し，最適な進路選択ができる自己評価システムの検討を進める。
- ・メタ学習センターが中心となり，ピア・チュータリング制度や能動的学習能力向上のための支援体制を整備・拡充するとともに，学習・教育の場としてライブラリースペースを活用するなど，学習環境の充実に努める。

(2) 学生生活，就職活動に対する支援に関する措置

- ・マナー向上活動を推進するとともに，大学施設利用のルールを明示し，モラル・マナー向上のための施策を引き続き実施する。
- ・学生委員会と事務局が連携するなかで，定期的の実態調査を実施し，学生の生活状況に関する情報収集を行い，必要な対策を講じる。
- ・後援会との連携を維持し，学生の自主的学習活動やサークル活動を引き続き支援する。
- ・公立はこだて未来大学振興基金の運用益等を活用した奨学金制度の創設等について検討する。
- ・就職委員会を中心に，引き続きよりきめ細かな就職指導および相談を実施する。
- ・就職委員会を中心に，より幅広い業界へ働きかけを行い，引き続き就職先となる業界・業種の拡大を図る。

5 研究の推進に関する措置

(1) 重点的・戦略的な研究テーマに対する支援に関する措置

- ・大学の独自性を生かした重点的な研究テーマや地域の課題に対する貢献度の高い重点テーマを設定し，学内研究資金等の弾力的な配分や資源の集中的な投入を行う。
- ・複雑系と知能の融合，ITとデザインの融合など大学全体としてのマリンIT，メディカルITおよびモバイルIT等の戦略研究テーマについて，重点的に取り組むための支援を引き続き行う。
- ・その他の一般研究テーマや社会連携・教育方法等に関する研究テーマに関する研究活動に対して，学内公募型研究制度等によって，それぞれの重要性・戦略性に応じた支援を行う。
- ・重点的・戦略的な研究テーマについて，複数の教職員等で構成するプロジェクトにコ・ラボ制度を適用し，大学が公式な組織として認定して積極的に支援する。

(2) 重点的・戦略的な研究への評価と情報公開に関する措置

- ・重点的・戦略的な研究テーマや学内公募型研究等に関して，定期的な成果報告書の提出を義務づけるとともに，研究成果の広報，評価，顕彰を効果的に進める。
- ・大学の戦略的な研究プロジェクトについて，定期的に成果報告会を開催し，学内での情報共有を図る。
- ・成果報告会等で活用したパネルの利活用を検討し，学内における情報共有を図る。

- ・機関リポジトリの内容の充実を図り，学内の研究成果を広く社会に公開する。
- ・社会連携ポリシーに基づき，教育研究の成果の社会還元および広く社会へ向けた情報発信を行う。
- ・大学出版会の目指す方向性（出版物の4カテゴリ）に基づき，学内の研究成果等の出版を引き続き進める。
- ・倫理委員会を中心に，研究者の倫理向上に関する啓発活動を行うとともに，研究費不正防止等対策の一層の推進を図る。

(3) 外部研究資金の確保，研究成果の知的財産化や事業化の支援に関する措置

- ・科学研究費助成事業をはじめ学外の競争的資金の申請を積極的に促すとともに，資金獲得者への優遇措置を講じる。
- ・公的研究資金の公募情報を収集，公開するとともに，獲得のための支援活動を継続する。（再掲）
- ・教育研究環境の充実を図るため，受託・共同研究等外部資金の獲得に引き続き努めるとともに，外部機関との連携および共同研究，受託研究等外部資金の活用による研究を積極的に支援する。
- ・社会連携センターを中心に，地域，企業への情報提供，意見交換を積極的に行い，共同研究，成果提供などの可能性の検討に継続的に取り組む。
- ・各教員や重点・戦略テーマ等の研究プロジェクトから創出される研究成果の知的財産化やイベントでの展示を支援する。
- ・知財ポリシーに基づいて，知的財産の登録拡大とその適正な運用を図る。

6 地域連携・地域貢献活動に関する措置

- ・地域の知の創出・交流拠点としての役割を果たすために，大学を取り巻く時代状況や地域が置かれた時代状況にふさわしい活動理念を追求し，中長期的なビジョンを描き，具体的な活動を推進する。
- ・地域をフィールドとした教育研究活動や地域志向の教育研究活動を推進する。文科省の掲げる地(知)の拠点整備事業の申請に向け，社会連携センターが中心となって積極的に支援する。
- ・社会連携ポリシーや社会連携センターの機能について引き続き学内外への情報発信に努め理解の促進を図る。

- ・地域社会の課題や要請を理解するため、地域住民とのコミュニケーションの機会、社会参加の機会を特別講演会や公開講座等を通じて創出する。
- ・地域産業との間で、本学の知的財産の活用、大学からの技術や知識の移転、人材教育の連携も含め、多角的なアプローチで連携を図っていく。
- ・地域の拠点としての本学の機能を更に拡充・整備する。また、そのために文科省の掲げる地（知）の拠点整備事業に申請する。さらに、室工大との連携事業を継続して行う。
- ・研究成果を生かした起業を促進するため、関係機関等との連携を図りながら「地域と社会」の講義を継続するとともに、起業支援に向けて地域企業組織との連携を引き続き図る。
- ・地域におけるIT関連事業に対する要請に応えるとともに、北海道の基幹産業である農林水産業、観光産業において産学官連携による研究活動を推進する。
- ・国、地方自治体等の各種委員会や地域産業振興施策への参画に関与する活動を組織的に支援する。
- ・地域の小・中・高校等との学校連携を充実させ、地域の理数教育や情報教育を含めた総合的な学力向上、学習意欲の向上などへの貢献に努める。
- ・高大教員の意見交換会や地域中等教育機関との単位互換授業などの、高大連携事業を継続的に実施する。
- ・キャンパス・コンソーシアム函館の活動に積極的に参画し、単位互換制度を推進するなど、地域の大学や高専等との学術連携・社会連携を進める。
- ・公開講座や特別講演会を充実するほか、生涯教育と大学教育のハイブリット型講義形式の実施を進める。
- ・地域における専門講習会等のニーズを調査し、本学が取り組むべき今後の方向性を取りまとめる。
- ・教職員の業績評価および学生の顕彰制度を通じて、地域貢献活動等の促進を継続する。

7 国際・国内の学術交流、連携等に関する措置

- ・学術交流の連携先を増やすと同時に、すでに連携している大学との交換留学を活性化する。（再掲）
- ・グローバルな教育研究を推進するため、国内外の大学や研究機関等との学術交流ネットワークを構築する。

- ・学術交流連携校との単位互換やダブルディグリー制の導入について、引き続き検討を進める。
- ・学生の留学に対する意識の向上を図るとともに、学生への情報提供とニーズ把握を行い、留学支援の体制を整備する。（再掲）
- ・地域の他大学との連携も視野に入れながら、函館全体として留学生の受入れ支援体制の強化を検討する。

8 附属機関の運営に関する措置

(1) 社会連携センターの運営に関する措置

- ・本学と地域社会、産業社会、国際社会との連携を推進するための活動方針を明確化する。
- ・社会連携の活動方針を関係組織や教職員に対し周知するとともに、学内の様々な取り組みについて情報共有に努め、社会連携に関する全学的な取り組みを推進する。
- ・科学研究費助成事業をはじめ学外の競争的資金の申請を積極的に促すとともに、資金獲得者への優遇措置を講じる。（再掲）
- ・公的研究資金の公募情報を収集、公開するとともに、獲得のための支援活動を継続する。（再掲）
- ・教育研究環境の充実を図るため、受託・共同研究等外部資金の獲得に引き続き努めるとともに、外部機関との連携および共同研究、受託研究等外部資金の活用による研究を積極的に支援する。（再掲）
- ・社会連携センターを中心に、地域、企業への情報提供、意見交換を積極的に行い、共同研究、成果提供などの可能性の検討に継続的に取り組む。（再掲）
- ・各教員や重点・戦略テーマ等の研究プロジェクトから創出される研究成果の知的財産化やイベントでの展示を支援する。（再掲）
- ・知財ポリシーに基づいて、知的財産の登録拡大とその適正な運用を図る。（再掲）
- ・地域産業との間で、本学の知的財産の活用、大学からの技術や知識の移転、人材教育の連携も含め、多角的なアプローチで連携を図っていく。（再掲）
- ・社会連携センターが中心となって、地域や産業界が求める研究テーマを設定し、産学等の連携による共同研究を推進する。
- ・多様な職務（リサーチ・アドミニストレーション、知財化コーディネーター、地域連携・社会連携コーディネーター、研究広報等）遂行に向けて、計画的に専門能力を高めるための育成を進める。

(2) 情報ライブラリーの運営に関する措置

- ・教育研究活動に必要な蔵書・資料の充実に努めるとともに、地域の公共図書館や全国の大学図書館等との連携を図りながら、効果的な蔵書・資料を構成していく。
- ・書架の狭隘化に対応するため、現有スペースの有効活用に努めるとともに新たな収蔵庫を整備し、今後の蔵書スペースの確保を図る。
- ・研究活動に必要な学術論文について、電子ジャーナルや論文データベースの利用環境を充実させるとともに、有料の学術論文データベースの契約内容は継続的に見直しを図り、効率的で効果的な整備を図る。
- ・機関リポジトリの内容の充実に努め、学内の研究成果を広く社会に公開する。（再掲）
- ・教員の協力を得ながら機関リポジトリの効率的・効果的な運用を進める。
- ・情報ライブラリーの利用に関するオリエンテーションを実施するなど、利用環境の整備と利用者に対するサービスの向上を図る。
- ・メタ学習センターと連携しながら、学生の情報ライブラリーの利用促進のための各種企画を計画し実施する。また、市民向けに収蔵資料を公開し地域の知的資源としての役割を果たす。
- ・Webページ等を通じて、大学の所有する書籍や資料に関する情報を地域に提供し、利用促進を図る。
- ・市内の大学図書館等との連携を図り、ライブラリーの利用啓発、読書啓発等の活動を推進する。

9 運営・管理および財政基盤の安定化に関する措置

(1) 大学の運営・管理に関する措置

- ・意思決定を迅速に行うため、常勤役員による会議を毎週開催する。
- ・大学運営の円滑な遂行のため、学内委員会等の機能分担を明確にし、迅速かつ的確な意思決定を行う体制を継続していく。
- ・大学の経営方針を踏まえ、重点的な事業テーマに対して柔軟な予算編成や配分を行うために、理事長の権限による意思決定と遂行の仕組みを継続的に検討する。
- ・実効性の高い大学運営を推進するため、中期計画・年度計画に基づいて、学内業務を分担する学内委員会の活動目標と活動計

画を明確化し、年度末に達成度の評価をする。

- ・計画的にプロパー化を推進するとともに、大学運営の戦略や課題に応じて、事務局の組織体制についても適宜見直しを図り、より効率的で効果的な運営を行う。

(2) 教職員の人事体制の適正化，業績評価に関する措置

- ・特任教員制度を活用し、特色ある教育，研究等を推進する人材の確保を図る。
- ・女性研究者比率の向上に向けて取り組む。
- ・函館市の制度も参考とし、プロパー職員，契約職員の人事評価制度を構築する。
- ・公大協等の研修カリキュラムへの積極的な参加を促し、職員の大学運営業務に係る資質向上を図るとともに、計画的な人材育成について検討を進める。
- ・多元的な視点に基づき教員の実績評価を行い、評価結果を一般研究費の配分に反映させるほか、処遇への反映について引き続き検討を深める。
- ・教員の在外研究制度の効果的運用を継続する。

(3) 財政基盤の安定化に関する措置

- ・引き続き管理経費の抑制に努めるとともに、戦略的な取り組みへの重点的な経費配分を実施するなど、より弾力的な予算運用を図る。
- ・科学研究費助成事業をはじめ学外の競争的資金の申請を積極的に促すとともに、資金獲得者への優遇措置を講じる。（再掲）
- ・公的研究資金の公募情報を収集，公開するとともに、獲得のための支援活動を継続する。（再掲）
- ・教育研究環境の充実を図るため、受託・共同研究等外部資金の獲得に引き続き努めるとともに、外部機関との連携および共同研究，受託研究等外部資金の活用による研究を積極的に支援する。（再掲）
- ・経済状況に応じた、安全性および安定性を重視した資金管理を引き続き進める。

10 自己点検・評価，広報・IR等の推進に関する措置

(1) 大学の自己評価・外部評価に関する措置

- ・評価委員会を中心に、大学運営についての自己点検・評価を定期的に実施し、今後の大学運営の改善・改革に活かす。
- ・外部の有識者等によるアドバイスや評価の実施を検討する。

- ・透明性を高めるため，自己点検・評価の結果を積極的に公開すべく，オンライン授業評価用サーバの改良を行う仕様の検討を実施する。
- ・外部の認証評価機関による大学機関別認証評価を受審し，評価結果および改善策を公表するとともに，課題の解決に努める。

(2) 広報・IR等の推進に関する措置

- ・高校等において，模擬講義やプロジェクト学習への体験イベントなどを実施し，本学における実践教育のあり方を伝える積極的な広報活動を引き続き行い，知名度の向上を図る。
- ・改訂されたウェブサイト等により大学運営情報や教育情報の積極的な公表に引き続き努めるとともに，広報媒体ごとの調整を図り，一貫性のある広報を展開する。
- ・本学の全国的なプレゼンスや大学ブランド力の向上，地域における情報発信やコミュニケーション機会の拡充へ向けて，戦略的な広報を推進する。
- ・後援会および同窓会活動の支援に努めるとともに，後援会ニュースや保護者相談会などを通じて，保護者や卒業生への積極的な情報公開や情報共有を図る。
- ・IRの導入を積極的に検討し，具体的な取り組みを推進する。

1.1 その他業務運営に関する措置

(1) 大学の施設設備全般の整備に関する措置

- ・施設利用状況についての点検・評価に基づき，効果的・効率的な施設運用に引き続き努める。
- ・施設設備修繕計画に基づき，計画的な修繕・改修を実施する。
- ・新たな情報機器と教育との関係に対する基本的考え方に基づき，平成27年度更新予定の次世代情報通信システムを整備する。
- ・平成27年度更新予定の次世代情報通信システムの整備に合わせ，大学運営事務のための各種情報システムを整備する。
- ・国際水産・海洋総合研究センターに研究機能を一部移転し，研究の質の向上に努める。
- ・東京サテライトオフィスのさらなる活用方策を検討するなど，各種サテライト機能の充実を図る。

(2) 環境，安全管理および人権擁護への配慮に関する措置

- ・冷暖房等の省エネルギー対策を引き続き推進し，一層の経費節減に努める。
- ・労働安全衛生法に基づいて設置した衛生委員会により，教職員

等の安全および衛生に関する意識の向上を引き続き図る。

- ・ 学生の生活状況調査の結果も踏まえて、学生等が夜間学内に滞在する場合の許可条件等の基準を定める。
- ・ 定期健康診断等により、学生および教職員の適切な健康管理を引き続き実施するとともに、臨床心理士による相談体制を継続する。
- ・ 平成27年度に更新予定の次世代の情報通信システムの情報セキュリティ対策の充実と利便性の向上のため、現在の学内で閉じたセキュリティ対策の考え方から、積極的に学外とも連携した開かれたセキュリティ対策の方式について検討を行う。
- ・ ハラスメント防止ガイドラインの周知を行うとともに、ハラスメントを防止するため、教職員および学生を対象とした研修会の開催等の啓発活動を継続的に実施する。また、ハラスメントに関する情報を収集し、必要に応じてハラスメント防止ガイドラインを更新する。

第3 予算

1 予算（平成26年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	1, 429
自己収入	718
授業料・入学料・入学検定料収入	667
その他の収入	51
受託研究等収入	100
寄附金収入	7
計	2, 254
支出	
業務費	2, 154
教育研究経費	822
一般管理費	406
人件費	926
受託研究等経費	86
施設整備費	14
計	2, 254

2 収支計画（平成26年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	2, 302
経常費用	2, 302
業務費	1, 763
教育研究経費	732
受託研究費等	80
役員人件費	58
教員人件費	677
職員人件費	216
一般管理費	269

財務費用	7
雑損	0
減価償却費	263
臨時損失	0
収益の部	2,302
経常収益	2,302
運営費交付金収益	1,423
授業料収益	592
入学料収益	85
入学検定料収益	14
受託研究等収益	100
寄附金収益	7
財務収益	0
雑益	51
資産見返運営費交付金等戻入	12
資産見返寄附金戻入	8
資産見返物品受贈額戻入	10
臨時利益	0
純利益	0
総利益	0

3 資金計画（平成26年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金支出	2,307
業務活動による支出	1,998
投資活動による支出	3
財務活動による支出	253
翌年度への繰越金	53
資金収入	2,307
業務活動による収入	2,254
運営費交付金による収入	1,429
授業料・入学料・入学検定料による収入	667

受託研究等収入	100
寄附金収入	7
その他の収入	51
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	53

4 短期借入金の限度額

(1) 短期借入金の限度額

4億円

(2) 想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延および事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借入れすることも想定されるため。

5 重要な財産の譲渡，または担保に供する計画

なし

6 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は，教育，研究の質の向上および組織運営の改善に充てることを基本とする。